

# 東邦キャンパス

平成 21 年 (2009 年) 1 月 5 日  
 発行 学校法人 東邦学園  
 〒 465-8515 名古屋市名東区平和が丘 3 丁目 11 番地  
 TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931  
<http://www.aichi-toho.ac.jp/>



## 学園は明るく活発です

学園の皆さん、私たちを支えて下さっている皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年は経済面でオイルショック以来の激変の1年でした。年が迫るにつれ、倒産、解雇など深刻な出来事が相次ぎました。

でも、学園の中は明るく活発です。生徒や学生、近隣の方々の笑顔をご覧ください。上の写真は、第21回全日本マーチングコンテスト（昨年11月23日・千葉幕張）で、6年ぶりの銀賞に輝いた東邦高校吹奏楽部の61人です。職員で顧問の白谷峰人さん指導のもと、一昨年の銅賞よりアップ、今年は頂点を目指します（関連記事12ページ）。バトントワリング部も1月末の全国大会に連続出場します。

愛知東邦大学では昨年11月22、23両日、大学祭が行われました（下写真、関連記事5ページ）。種々の催しの中で、人間学部子ども発達学科の学生が開いた「キッズ広場」には、学園近くの親と子延べ150人が集まり、絵本の読み聞かせ、即興の劇などに楽しいひと時を過ごしてもらいました。

### 新たな教育的取り組みを展開

教育の新たな取り組みも、この4月から始まります。高校では昨年から進めてきた「学力向上プロジェクト」の一つとして、毎朝一斉に10分間、読書する時間を作ります。また月曜日には7時限目を設け、単位数を現在より2単位増やします（関連記事9ページ）。

大学は経営学部の地域ビジネス学科のコースを、スポーツマネジメント、観光ビジネス、流通・サービス、現代マネジメントの4コースに再編して、学びの目標と目的意識をより明確にします。



# 年頭所感



## 学ぶ機会・学ぶ場を守り抜こう

理事長 榎 直樹

「明けましておめでとうございます。世界中で同じ言葉を交わしているでしょう。しかし、暮らしの

先行きを考えると、心から「おめでとう」と思える人が、どれほどいることか。いま、100年に一度という「全世界恐慌」の真っ只中にいます。

まだ1年前、主に大企業の好業績の恩恵を、株主だけでなく働き手にも還元すべきだと、時の福田政権がベアを経済界に促すほどでした。一方で、巨大マネーを振りかざす集団が、石油や食糧の市場へ資金を流れ込ませ、とてつもない価格高騰を引き起こしました。カネが新たなカネを生み出す金融システムには天誅が加えられたらという空気もありましたが、そのからくりの愚かさが世界中に大崩壊を一挙にもたらすとは、ほとんど考えませんでした。

わずか4カ月前、リーマン・ブラザーズ破綻の際も、日本に、とりわけ東海地区にまで突然の解雇、住みかを追われる人々が現れようとは、想像できなかったでしょう。

皆さんに呼びかけたいのは、こういう時こそ、子どもの学ぶ機会・学ぶ場を、あらゆる手立てを通じて守り抜こうということです。

フリーターやニートと呼ばれる若者の多くは、バブル崩壊後から10年近く続いた就職氷河期に、正規雇用される機会を得られなかった人です。ただ彼ら彼女らは、高校や大学で学ぶ機会まで奪われてはいなかったでしょう。

しかし現在、下請け企業に働く人々、日本を代表するような企業の派遣労働・パートの人がまず切り捨てられ、相次ぐ倒産と基幹産業の業績悪化によって正規社員まで解雇される事態です。お父さんが失業し、教育費を補ってきたお母さんのパート収入がなくなれば、就学をあきらめざるを得ない学生・生徒が相次ぐ恐れがあります。学費のかさむ私学へ子弟を通わせる家庭は、より深刻です。

学歴が以前ほど重視されないとはいえ、同世代の9割超が高校に進み、半数が大学に通う中で、もし学ぶ機会、自分を磨く場を失えば、その後の人生に決定的なハンディを背負います。社会にとっても将来大きな損失です。

何ができるか——。国や自治体からは、就学困難な子どもへの公的な支援です。私たちの税金を学納金の負担軽減、とりわけ私学に学ぶ学生・生徒を助ける緊急性を理解し、支出していただく必要があります。学園としても、経営努力で父母への負担を極力抑え、就学生への支援を今より手厚くしなければと考えます。

経済的苦しさから、子どもが落ち込まないか心配です。お父さん、お母さん、教職員の皆さん、生きる力を萎えさせないよう、励ましましょう。

昨年11月、高校の修学旅行で中国に同行しました。南京駅で列車を待つ間、男子の2年生に粗末な服装の中年男性が、手を出して物乞いしました。旅行中、何度も体験したことです。その生徒はいきなり「働けよ」と怒鳴りました。中国人に言葉は分からなくても、顔色で通じたでしょう。横にいた私は「確かに君の言う通りだけれど、働き口がなかったらどうするの?」と問い返しました。「バイトすれば」と彼は答えました。

私たちは、家から学校に通える、学校を卒業すれば就職先が必ずあると、当然のように思える社会を築いてきました。生徒が格差著しい中国の様子を理解できなかったのも無理からぬことです。しかし、日本でも働き口が急速に閉ざされています。望みたくはありませんが、今の状況をしっかり教え、生き抜く力を養えたら、100年に一度の不幸も、得がたい体験になるかもしれません。



## 蠟燭から「燃える」一人と組織の可能性を拓く

大学学長 山極 完治

蠟燭の話ではアナログ人間を露呈するようです。

「蠟燭に芯があれば、闇は照らされる。心に芯がなくなれば、人は闇に落ちてしまう」と、なかなか言い得て妙です。

蠟燭でなく結婚式やクリスマスを飾るキャンドルと言えば、単なる“ロウソク話”からの脱却です。

さて、そもそもなぜ燃えるのでしょうか。キャンドルは可燃性物質であるロウと木綿芯からできています。このロウが空気中の酸素と組み合わせあって燃えるのです。木綿芯は燃えるための橋渡し役となるものです。

この「燃える」を考えると、物には、可燃性と不燃性と自然性があります。人にも同じ3つのタイプがあると指摘されています。可燃性の人、他人が仕事に燃えるのを見て、刺激を受けて自分も燃えるタイプ。不燃性の人、いくら目標を与えても燃え上らず行動しないタイプ。そして、自然性の人、火を近づけなくても

自ら燃え上がり行動するタイプ。ものごとを成就していく人は、熱意や愛情があり、自ら燃える人だから、人や組織に必要なのは「自燃力のある人」だ、としています。

しかし、私はすべてがそうとは思えません。思いつきから勝手に燃えてしまう「自燃力」ではいただけません。期待感を抱き所に、可燃性のある人を、どのようなきっかけを与え燃えだすかを考え続け、一緒に力を合わせて燃える、そうした「自燃力」のある人こそが必要だからです。

また、どれだけいい環境を与えても燃えないタイプとして「不燃性」の人を描いていることにも不満です。やはり、その人にうってつけの環境を与えれば、驚くほどの成長を示す場合があるはずとの期待を持って潜在力を引き出す粘り強い努力こそが大事です。だいいち成長する意欲のない人はいないはずです。

人を動かす組織と考えた場合、自燃力のあるタイプが大事だが、大多数を占める可燃性のあるタイプの人、自然性に近づくのか、不燃性に近づくのか、という引っ張り合いからすれば、このボーダー層の帰趨こそが組織の質を決めていくとも言えます。それ次第で不燃性が質転換を遂げて可燃性になれば、その後は量的変化を遂げて自燃力を身につけるのも遠い話ではなくなるでしょう。

そのためには「可燃型」の人たちに火をつける『コーチング』が欠かせません。求められるのは、教える側に答えがある「ティーチング」でなく、相手に考えさせる『コーチング』です。

可燃性のある学生を自然性のある学生に変える意味から、新年は学生たちの可能性を引き出す学修重視に踏み込む必要性を感じております。私たち教職員が教師となって「教師は蠟燭、自分で燃やして他人を照らす」となるといいですね。



## 「おせち」と「おから」

高校校長 高井 茂雄

豪華なお節料理がデパートに並びます。高いなあ、買う人があるんだなあ、としか思えないのがいさ

さか情けないところです。料亭が出していた「お節」の「お重」を、一般大衆が購入できるようになったのは、昭和42年に日本橋三越が

永田町瓢亭のお重を予約販売したのが始まりだそうです。三越の宣伝で知りました。いかにも経済成長時代のエピソードですね。この正月の売れ行きはどうだったのでしょうか。

お節料理を見ると「おから」を思い出します。不釣り合いな連想ですが、しかしそのおからは二段重のお節の中に入れるという立派な一品のことです。汁気が残っているような炊き方のおからではなく、さらさらになるまで根気よく煎った感じ、それでいてほとんど真っ白。一目見た時は何の食材かわかりませんでした。一口含むと、舌に感ずる爽やかな食感、控えめにうまみ味が滲みたま上品な味でした。

そこは、年配の料理人がやっている割烹屋です。昔からのご最良さん向けにお節20セットを作っているという最中に私が入っていたのですが、めったに作らないでいいとこに来たね、と言って小皿に出してくれました。お節料理におからを入れると聞いた意外さと、その一品のうまさが忘れられません。

しかし、それ以上に思い出すことがあります。そのご主人は、いつもその日のお勧めを出しながらその一皿にまつわるうん蓄を語ってくれました。なぜ自分がここで店を開いているかも語ってくれました。父親が築地新喜楽の板前で、自分も修行の振り出しはそこだった。一定年数の後、伊豆の某老舗温泉旅館へ行き、色々あってその旅館の仲居と駆け落ち。転々と渡って結局名古屋で落ち着いた、と言う物語。私は、思い切りの良さにわくわくしたり、苦勞話にしんみりしたりしてその話を聞きました。店の奥では女将さんが笑顔でこちらを見ていました。惜しいことに、数年前に突然他界されました。師を一人失ったような無念さを感じました。

高級なお節料理を「見る」と伊勢エビや鮑ではなく、手間をかけた「おから」を思い出します。今年の経済は落ち込んだまま推移するとのもっぱらの予想です。私達の生活も覚悟が必要のようです。派手さや豪華さに憧れる気持ちは抑えて、質実さと内面の味わいを大切にしていきたいものです。学園に係る皆様が健康で過ごされますようお祈り致します。

# 年頭所感



# 大学の行事

## 学生生活全般にわたる意見交換の場 教育懇談会を開催

人間学部学部長 山本 正彦

9月27日(土)、本学の教育個別懇談会が実施されました。この懇談会では、ゼミ担当教員と保証人が、日頃の学生たちの様子や単位の取得状況を伝えたり、進路について相談をしたりするなど、学生生活全般にわたる意見交換をする場となっています。

教育個別懇談会への参加者は、経営学部、人間学部あわせて156名であり、ゼミ担当教員と保証人との間でいろいろな内容の話し合いがもたれました。「子どものことや単位の取得状況などがよく分かった」「教育内容や進路についての理解がはかれた」、そして「今後もこのような会を催して欲しい」との意見が多く出され、保証人の方々に満足していただいたことがうかがえました。本学にとっても、保証人の方にとっても、大きな成果が得られたのではないのでしょうか。

こうした教育個別懇談会を今後も継続することにより、本学の教育を保証人に理解してもらおうと同時に、その内容を教育・学生生活全般にわたる指導に役立てるべく、より充実した会にしたいと考えています。

## 就職支援 ～学生から社会人への一歩～

学務部就職課 池田 暁生

東邦学園の後援団体「フレンズ・TOHO」と就職課の共催で、未内定者のための『就職支援相談会』を9月27日に実施しました。当日はフレンズ会員企業9社13名と、未だ企業から内定をいただいていない学生22名が参加しました。

秋季実施の学内企業展は今年で3回目。例年参加学生は、この就職支援相談会で良縁に恵まれています。

当日、学生たちは開始前にフレンズ・TOHO会員企業である㈱インテルプレスの「就職ミニガイダンス」を受講し、就職支援相談会に臨みました。

開始直後から各企業ブースに学生が座り、熱心に人事担当者から採用に関する話をうかがいました。1時間半という短い時間ではありましたが、参加学生には有意義な時間となりました。

この時期からでも意欲的に活動する学生への支援体制を、今後も学園をあげて取り組んで参ります。



人事担当者の説明を聞く学生

## 地域医療はどうなっているのか

地域創造研究所所長 森 靖雄

11月28日(金)、名古屋栄のガーデンパレスホテルで第7回地域問題講演会・シンポジウム「地域医療はどうなっているのか」が開かれました。愛知東邦大学と学園の支援団体「フレンズ・TOHO」の共催(愛知県、名古屋市後援)で開かれたこの催しには100人余の参加があり、今回は遠隔地からの参加者も目立ちました。

講演は神奈川県立保健福祉大学名誉学長の阿部志郎氏「医療問題と福祉のこころ」。歯切れのよい口調で、医療も福祉も根底に他人を思いやる心がなければうまく行かないことを、多彩な話題をまじえて話されました。

シンポジウム(討論会)は、「地域医療はどうなっているのか」。本学人間学部宗貞秀紀教授の司会で進められ、愛知県保険医協会事務局長西村秀一氏から現在全国的に起きている医療機関や医療制度破綻の概要やその背景。半田市民病院前院長肥田野等氏から主として公立病院現場の実情や問題点。当研究所研究員で医療法人清水会評議員でもある佐藤洋氏から「医療問題」の地域による問題性の違いが報告され、事態は現在過疎地域で起きているような問題が拡大すると警告。続いて、それぞれから医療問題解決への提言がありました。

「地域医療の混乱」は早急に改善が求められている問題です。地域創造研究所では今回の講演とシンポジウムの記録を含めた本『放置できない! 地域医療』を、3月までに出版(市販予定)する準備を進めています。



阿部志郎氏の講演風景

## 資格試験に挑戦!

資格実習委員会委員長 井上 秀次郎

大学では、学生のための各種資格試験や検定試験に対する支援を行っています。これらの試験に合格すれば単位認定が行われるものもあります。学修教育支援センターや資格実習委員会では学生のための各種試験講座も開設しています。開設講座には有料のものも無料のものもあります。

本学で前期に企画した検定試験と資格対策講座には「マイクロソフトアプリケーションスペシャリスト試験(Excel2007)」、「同試験(Word2007)」、「国内旅行業務取扱管理者」、「簿記検定3級」、「販売士検定試験(2級)」、ほかにe-ラーニングによる「証券外務員Ⅱ種」などがあります。

「マイクロソフトアプリケーションスペシャリスト試験(Excel2007)」は、14名受験し、10名が合格しました。「国内旅行業務取扱管理者」は4名が受験し、3名が合格しました。うち1名は昨年度を受講者でした。「販売士検定(2級)」には、8名が受験し、1名合格しました。厳しい結果が出たものもありますが、前年度受講者の合格などを考えると、やはり大学の対策講座を受講して試験に臨んでもらうのが効果的かと思います。

合格者の皆さん、また講師の先生方大変お世話様でした。さらに学生へのPRや指導方法の改善などに努めたいと思います。今回惜しくも不合格になった受験生の皆さん再度挑戦してみてください。

## 合格者の喜びの声

(国内旅行業務取扱管理者試験合格  
経営学部2年岩佐圭悟さん)

試験の前には毎日10時間ぐらい勉強しました。試験直前になってきたら、あれもこれもまだまだ勉強できていないという強迫感でパニックになりそうでした。特に観光資源のところを覚えるのに苦労しました。わたしは高山出身ですので、卒業後は観光業界に就職し、自分の企画で旅行プランをデザインし、高山を活性化させ、発展に貢献したいです。次は海外旅行も取扱える総合旅行業務取扱管理者試験に挑戦します。講師の先生、ゼミの先生ありがとうございました。

## 「教員採用試験対策講座」などミニ講座を開講

昨年4月に開設した学修教育支援センターでは、まなびの場を提供するために色々なミニ講座を開講しています。これまでに「煙草って何?」、「保育実習にむけてのマナー講座」、「感染予防について学んでみよう」「漢字で自然、身体、男女の関係を感じよう!!」などを行いました。

12月・1月は、中高教職課程登録者を対象とした「教員採用試験対策ミニ講座」や、1・2年生を対象とした「難しくない、レポート作成の基本とコツ」を行います。

詳細は、学修教育支援センターまでお問い合わせください。

## 大学祭 新しい東邦らしさがあちこちに

生活支援委員 肥田 幸子

11月の秋空の下、2008年度「愛知東邦大学和丘祭」が開催されました。天候に恵まれ、色づいた落ち葉の舞う中で「live love loop(愛の輪の中で生きる)」をテーマにした2日間でした。模擬店、体育館でのコンサート、ビンゴゲーム、滝前イベントなどでは、例年のごとく学生たちのエネルギーがあふれ、図書館コンサート、各種展示・催しなどは私たちにゆったりとした時間を提供してくれました。

今年の特徴は親子連れの姿が多く見られたことでした。模擬店でお父さんと買い物を楽しむ子どもたちの笑顔や、ピカチュウ折り紙を作る子どもたちとそれを指導する学生の生き生きとした表情が印象的でした。

子どもたちと関わることを楽しむ学生、リコンディショニングルームで筋肉の説明をしながらマッサージをする学生など、新しい東邦らしさの加わった大学祭でした。



保育士をめざす学生が折り紙の指導にあたる

# 高校の行事

## 2年生中国修学旅行

2年学年主任 中林 幹雄

2年生の1・2団(A～G)は11月13日(木)～17日(月)、3・4団(H～N)は14日(金)～18日(火)に中国の蘇州・南京・上海に修学旅行に行ってきました。5日間の日程中は雨も降らず、しかも例年より暖かくコートが必要ありませんでした。出発前



の日程中は雨も降らず、しかも例年より暖かくコートが必要ありませんでした。出発前

に不安だった生徒達も、中国の風物に感嘆し、級友とも楽しい時間を共有しました。南京での虐殺記念館のセレモニーや、南京外語学校との交流、夫子廟での班行動、上海雑伎団の妙技の印象が深かったようです。この経験をこれからの生活に生かして欲しいと思っています。

## あふれる思いを作品に ～「未来の芸術家たち展」開催

美術科教諭 松下 明生

10月28日から11月3日までの7日間、愛知県美術館にて第16回「未来の芸術家たち展」を開催しました。3年生の美術科生徒全員と、商業科グラフィックデザインコースの生徒たちによる卒業制作展示です。

今年は、8階のE・Fギャラリーで初めて展示したのですが、日本画、油絵、彫刻、ビジュアルデザイン、商業科グラフィックデザインを部屋分けして展示した形となっていて、画廊の雰囲気に近いという感想も聞きました。また、入場者数は、ここ数年の中で最も多く、初日の午後には芸能鑑賞直後に長い列ができたほどでした。1,800人を超える入場者の中には、作品の前で感動し涙する人もいて、その姿を見た作者がありがたさに感謝して、もらい泣きするといった場面もあったりと、会場

では毎日いろんなことがありました。

お忙しい中、お越しくくださった皆様にお礼申し上げますとともに、まだまだ未熟なこの若い芸術家たちがこれからどんなふう成長していくのか、見守っていただきたいと願っています。



作品に見入る入場者

## 「慰霊の日」 平和の碑に花を供え祈る

1944年12月13日、三菱重工業株式会社名古屋発動機製作所に対する米軍の空襲により、本校教職員・生徒合わせて20人が犠牲となりました。それからすでに64年。

12月12日(金)、「慰霊の日」の追悼式が執り行われ、高校の校舎入口にある出会いの広場には、東邦辰巳会、同

窓生、在校生、教職員らが参加しました。理事長が犠牲者一人一人の名前を呼び平和への行動を誓った後、黙祷と献花が行われました。

世界のあちこちで起こる戦争、テロ。平和の尊さ、平和を守る使命をあらためて感じた一日でした。

## 平和が丘の秋祭りに参加

11月2日(日)平和が丘第一公園で、第14回平和が丘秋祭りが開催されました。

東邦高校の生徒たちも祭をバックアップ。吹奏楽部は演奏で盛り上げ、科学研究部はスライム作りなどで子どもたちを楽しませました。公園は大勢の大人や子どもでにぎわい、餅投げで最高潮に盛り上がりました。



餅投げで祭りは最高潮

## 体育祭

10月2日(木)、体育祭が開催されました。新しいグラウンドで行う初めての体育祭。グラウンドのスピーカーも本格的に使うこととなりました。ワイヤレスを使ったこともあり、周波数が大学の講義用の周波数と被ってしまうハプニングもありました。

生徒諸君は障害物競技や綱引き、そして応援合戦に元気溼漉。順延した体育祭だけに、青空の下たっぷり汗を流す姿が眩しく見えました。



## 文化祭

新校舎で迎える2度目の文化祭となりました。9月26・27日の週末、父母や友達そして地域の方々の参加も得て、賑やかな文化祭となりました。中庭で次々と披露されるクラブやクラスの出し物は、多彩でした。和太鼓あり、ダンスありのパフォーマンスは見るものを惹きつけました。

文化祭の恒例になっていた「東邦さしめん」(PTA協賛)、昨年度は新校舎のため中断されました。復活を望む声は多く、今年はオーバルランチルームの横を使って開店され、卒業生・教職員も懐かしく「さしめん」に舌鼓を打ちました。



# 国際交流



## 高校

### ニュージーランドから研修生 25人

国際交流室長 河野 芳江



シャーリー13人、マリアン12人の一行

10月1日から9日、ニュージーランドの姉妹校シャーリーボーイズとマリアンカレッジから25人の生徒と3人の先生が

やって来ました。今回は体育祭に何とか参加することができ、大喜びでした。滞在中に広島と姫路に出かけるというハードスケジュールでしたが、ホームステイもしながら東邦生活も存分に味わい、東邦生にも大いに刺激を与えてくれる実りある9日間になりました。

## 大学

### 北欧・スウェーデンの福祉視察 人間生活大国！を実感

地域国際交流委員長 宗貞 秀紀

本学は経営学部に加え、2007(平成19)年4月に人間、スポーツ、健康、心理、福祉、子ども発達をキーワードとした人間学部を開設しました。この人間学部が中心になって、世界で最も人間観の旺盛なスウェーデンへの視察研修を9月9日(火)～17日(水)の日程で実施しました。

スウェーデンのイエテボリ市にあるイエテボリ大学(約4万人の在籍学生を抱える公立大学)は、2001年からわが愛知東邦大学と提携して活動を展開してきました。大学として組織的な取り組みと訪問視察は、今回が初めてでした。

10人以上の視察は「視察公害」として批判を浴びることがあります。にもかかわらず、この視察プログラムには、23人(女性14名、男性9名)の経営学部、人間学部の学生が参加しました。受け入れプログラムを計画して頂いたニルソン教授には、4～5人の班編成で、6か所の幼児教育・保育所・小学校に分散しての視察・体験研修を組んでいただきました。

昼間は片言の英会話による言語コミュニケーションとボディランゲージで体験実習を行い、夕



イエテボリ市内「就学前幼児教育学校」にて

刻17時～20時まで、イエテボリ大学での本格的な講座と質疑応答によるセミナーが開催され、学生も普段見られない力と熱心な討議を行いました。

レクチャーを担当された教員が言います。「税金は取られているという感覚はない。私たちの貯金と認識している。その貯金をどう国民の生活、教育、医療、介護などに使うか、使わせるかが私たちの力です」と誇らしげに語ります。

子どもの教育と保育、そして高齢者の自立支援施設を少人数で視察しました。合わせて、まる1日は町並みを自由散策する時間も確保し、学生もそれぞれ北欧の歴史や風土、文化を確認しつつ楽しみました。

帰国前には、世界一の観光都市であるパリの有名な観光地も訪れることができ、23人の学生それぞれが、世界観、人間観等を豊かに育んでくれていることに感謝しています。

2009年4月頃には、ニルソン教授が来日・訪問される予定となっているので、感謝の意味も込めて改めて歓迎したいと考えています。

### 米国の交流協定校を表敬訪問

地域国際交流委員会副委員長 岡部 一明

9月25日から10月2日まで、榊理事長以下5名の本学代表団が、20年来の交流協定校であるエベレット・コミュニティ・カレッジ(EvCC、米国シアトル近郊エベレット市)を表敬訪問しました。EvCCは現在、シアトル都市圏での高等教育ニーズの高まりにより、四年制大学教育の充実や新校舎増設など「50年来最大」と言われる規模拡大期に入っています。この期に国際交流も一気に拡大する方針で、長年の交流協定校である本学に表敬訪問の要請が来たものです。

榊理事長、山極学長、増田事務局長、岡部地域国際交流委員会副委員長、松井学務部同委員会担当の5名が渡米し、学内・近郊事情を視察するとともに、先方の学長、理事、実務担当者らと今後の交流拡大に向けて突っ込んだ話し合いを行いました。

## 学力向上プロジェクトについて

高校校長 高井 茂雄

いる。この環境保全基準に従って、全校挙げて運動を展開し、実践的な環境教育をする。

④制服の正しい着こなしの指導…女子の短いスカート、男子の腰ばきズボンなどに対し厳格に指導する。

(2)平成21年度から実施すること

⑤30→32単位への増加…週あたりの授業時間を2時間増加する。

⑥単位認定基準・進級判定基準の改訂…単位を認定できない成績不良者に対して、現状は年度末に追試を実施してチャンスを与えているが、学期ごとの学習を確かなものにするため、各学期ごとに再試をすることとし、再試までに十分な学習を迫る指導をする。進級のための判定基準は現状より高くし、各学期ごとの学習を迫るものとする。

⑦行事日程の見直し…各学期考査後も平常授業を行い、授業日数を確保する。

⑧生活指導諸規定の見直し…学習重視の学校生活と、社会的ルール遵守をより明確にして諸基準を整備する。

⑨課外活動と学習の両立のための見直し…クラブ活動時間を30分延長し活動の充実を補習する。一方で下校時間を厳格に指導する。

以上のほかに、平成22年度から制服のマイナーチェンジを計画しています。

これらの改革で2つの目標はかなり達成できるものと確信しています。今後の5年間は、実行と点検の期間になります。

変化の激しさは、産業経済の分野だけではなく教育の分野でも同様です。本校は、新入生合宿研修、長期休暇の学習合宿、男女共学、国際・理数コースや美術科の設置など、他に先駆けて斬新な教育経営をしてきました。それぞれの取り組みが生徒に緊張感をもたらし、有効に機能してきました。また、学校評価につながり入学希望者の増大という形になって表れてきました。

しかし、一時は良くてそこには既に改善すべき問題点が出てくるものです。現状の自己分析では、2点の問題点を意識しています。一点目は、生徒に対し十分に学習を迫っていないこと。二点目は、進路指導面や生活指導面で外部の評価はあまり高くないこと。

これらの対応策として、まさしく教育改革をするべく「学力向上プロジェクト」と名付けて研究や検討を進めてきました。改革の目的は、問題点と意識した2点である、「学力向上」と「外部評価向上」にあります。

既に部分的に先行実施している改革もありますが、多岐に亘る全体的な改革を次年度から実施に移します。

(1)既に今年度までに着手したこと

①文理特進コースの新設…国際・理数コースを併せ、更に国公立大学進学対応のカリキュラムにする。

②理科教育の推進…理系コースでエネルギー問題や環境問題を積極的に取り上げた教育をする。国が主導する「エネルギー教育実践校」「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」にそれぞれ認定されており、大学等の他機関と連携教育をする。

③環境教育の推進…「エコアクション21」に認定されて



地元紙「ヘラルド・タイムズ」

本学は短大を廃止して四大に移行したのですが、EvCCは公立短大のままで、他の四年制大学と提携して学内で四大・大学院教育を行うという、ユニークな戦略をとっています。それに伴い、校舎面積も1.5倍に拡大するという建設工事の真っ只中でした。本学

とは、これまで行っていた短期語学研修や半年～1年の学生留学、先方からの短期研修受け入れを強化するほか、長期留学やインターンシップの受け入れ、教員の長期相互派遣など多岐に渡る計画が出され、実現に向けた交渉が行われました。

今後の交流拡大に大きな展望が開けると同時に、先方の旺盛な交流意欲に本学がどれだけ応えられるか試

される時期にも来た認識を新たにしました。代表団訪問の様子は地元紙ヘラルド・タイムズに2面に渡り大きく取り上げられました。

## 大学

### アメリカ語学研修(予定)

大学主催の現地徹底英語漬けの語学研修ツアーを2月7日(土)～22日(日)行います。「アメリカの文化を知りたい」「現地の暮らしを体験したい」など、観光だけのツアーでは決して味わえない、人とのふれ合いを重視した体験型ツアーです。研修はエベレット・コミュニティ・カレッジ(EvCC、シアトル近郊エベレット市内)を基点に行います。現地ではホームステイをしながらEvCC英会話クラスの受講、ボーイング社・ボランティア団体などの訪問・交流をします。

# 地域創造研究所

## 地域創造研究所から4つの話題

地域創造研究所 森 靖雄

地域創造研究所では、月例研究会の開催や「所報」の発行など研究業務のほか、研究所自体の改革や各種の「地域振興」事業に取り組んでいます。ここでは、最新の事業を4つご紹介します。

### (その1) 地域研究叢書の10冊目発刊

研究所では、唯学書房(東京)から年間2冊ずつ「地域創造研究叢書」を発刊しています。10月1日には、研究所の「名東の子どもたち研究部会(主査:古市久子教授)」の研究成果『(叢書10)「子育て」環境を創りだす』を発刊。第一部 子どもの「子育て」環境を考える、第二部 子どもが育つ地域づくり、第三部 自分たちのまちは自分たちの手で、の三部12章にわたり子育てのあり方が論じられています。第二部には昨年秋に開催した「地域と子ども」講演会とシンポジウムの記録も収録。好評で、早くも残部が少なくなっています。



### (その2) 研究所の体制整備

東邦学園では、文部科学省基準に適合する研究所への改革を進めてきました。専任事務職員の配置や、運営規程の改正などを終えて申請しました。本年度から国の助成金が数倍に増える予定です。創立以来の活発な研究実績に加えて、今回体制整備を終え、次は研究所の蔵書や資料の公開場所を改善する課題に取り組めます。

### (その3) 半田市政研究第2期へ

研究所が運営受託している半田市超党派市会議員さんたちの勉強会「半田市政研究会」は、第1期「公立病院の経営問題」を終えて、10月から第2期「ゴミ・環境問題」に移りました。公立病院問題については報告書を発刊することになり、参加者たちも原稿を寄せられています。この勉強会は議員の政策立案能力向上を目的に、半田で開催。半年ずつ同じテーマで、毎回異なる講師を招いて勉強しています。出席率が高い勉強会です。

### (その4) 近く2つのシンポジウム開催

予告です。1月31日(土)午後、「下出父子と東邦商業学校」をテーマにするシンポジウム(討論会)を開催します。下出民義・義雄父子がどのような経過や想いで「東邦商業学校」を開設されたのかを明らかにする予定です。

2月には、恒例の「名東カルチャーゾーン構想シンポジウム」を開きます。大学・高校近くの市街地に、「昼間は学生、夕方以後は住民と一緒に学んだり集まったりできる施設」を作るユメの実現方法を語り合う場です。誰でも参加でき、自由に発言できます。

## 本学教員の著作

『中部の産業—構造変化と起業家たち—』

安保邦彦著 清文堂出版発行

本学経営学部の安保邦彦教授(博士)が11月30日に標題のような新著を出版されました。この本は、江戸時代から最近までの名古屋周辺の産業を綴った歴史書。特に、新しい産業を起した人たちを中心に多彩な変遷が綴られており、改めて「ものづくり愛知」の奥深さが実感できます。(3800円+税)



# キャンパス短信

## 法人 「80周年事業募金」 1億6千万円 ご協力に深謝

「80周年事業募金」は、2004年4月から本格的に依頼活動が行われました。この募金は、学園創立80周年を記念し、大学の新学部(人間学部)増設、大学グラウンド(野球場・サッカー場)の新設、高校校舎の全面建替えを目的として行われました。

2008年11月末をもって、この「80周年事業募金」は終了し、この間の募金総額は、1億6千459万円の多大な額となりました。学生・生徒・教職員をはじめ同窓生など一般の方々のご寄付に改めて感謝申し上げます。

## 大学 学生ボランティア 障害者卓球選手権大会でサポート

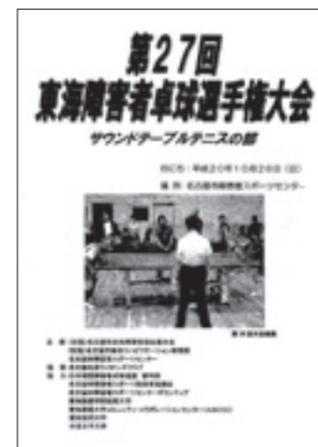
経営学部専任講師 大勝 志津穂

10月26日(日)名東区にある障害者スポーツセンターで行われた、東海障害者卓球選手権大会(サウンドテーブルテニスの部)の運営ボランティアに、学生と一緒に参加してきました。

ボランティアの要請が急なこともあり、すべての学生に知らせることはできませんでしたが、経営学部1年生3名、人間学部1年生3名、2年生1名合計7名の学生が積極的に参加してくれました。仕事内容は得点をつけることとボールを拾うこと。簡単ではあるが地味な仕事です。朝8時45分の集合から18時解散までの長丁場を、学生は文句も言わず自分に与えられた役割

を果たしていました。

障害者スポーツセンターは愛知東邦大学がある名東区にあります。スポーツという意味でも、福祉という意味でも様々な可能性のある場です。今後、ボランティアでのサポートを含め、多くの学生が障害者スポーツセン



ターで活躍してくれることを期待しています。

## 高校 中学生スピーチコンテスト 81人が参加

11月1日(土)に第3回スピーチコンテストが開催されました。文化行事と重なったため、参加者は昨年よりやや少なめでしたが、レベルはぐんとアップ。スピーチ部門と暗誦部門に分かれてすばらしい発表が行われました。午後、中学生が審査発表を待つ間、東邦の文化(culture)を見ていただきました。放送部の司会進行で、吹奏楽部の演奏、2年L組の英語劇、そしてダンス部の演技が行われました。特別棟1階では美術科の作品も展示され、中学生が見入っていました。



英語のスピーチをする中学生たち

## 高校 グラウンドに夜間照明点灯

11月も中旬になると日暮れが早い。放課後グラウンドで練習に励むクラブは、短時間しか練習が出来なく、旧校舎の際には教室の全照明を点けて練習し、注意されるクラブもありました。

こうした思いをした生徒諸君の提案で卒業記念にグラウンド照明を、との声がありました。残念ながら、卒業時の寄付金だけでは照明を取り付ける資金としては程遠く、資金を積み立てて、いつかは照明を、というのが願いでした。

今年度、名古屋市の補助金がこの照明設置に充当でき、念願のグラウンド照明が実現されました。もちろん電気が嵩んだり、クラブ活動時間が規定を超えて長くなることも懸念されます。こうしたことに対しては照明使用規定をはっきりさせ、節度ある使用をおこなっています。

# クラブ活動 高校

## 軟式野球部

### 秋季東海大会優勝 野球の神様はお前達を見ている～

軟式野球部監督 木村 剛

昨年の硬式野球部の活躍は、ご存知のとおりだと思います。夏の甲子園で3回戦まで進み、東邦打線は地区大会同様に爆発し、その粘り強い戦いは多くの東邦ファンに感動を与えてくれました。実は、この甲子園大会のさなかに、静岡県草薙球場でもう一つの「東邦高校野球部」が歴史的な一戦を向かえていたことはあまり知られていません。軟式野球部が全国大会出場を賭けて、愛知県代表として夏の東海大会を戦っていたのです。

東邦の軟式野球部は、夏の全国選手権大会(明石)と国体への出場がそれぞれ1回ずつ。しかし、これは30数年も前のことです。県大会での上位進出を果たせない時期もありました。しかし、夏のチームは個々の技術、そして精神力が大変高く、何よりも「野球の神様」の存在を信じていました。軟式野球は、硬式とは違う技術と作戦が要求されます。得点は硬式よりも入りにくく、球場の大きさは同じでも、実際に活用するフィールドは圧倒的に狭いといえます。だからこそ基本を忠実に、繋ぎの野球を意識して取り組む姿勢が問われます。わずかな隙をみせたり、緩慢なプレーは致命的なダメージとなり、そこで勝負が決してしまいます。もちろん「野球の神様」は決してそのことを許してはくれません。

さて、夏の東海大会の結果ですが、残念ながら準決勝で岐阜中京に僅差で敗れ、全国大会出場の悲願を逃しました。その中京は全国で準優勝し、東海地区代表として活躍してくれました。しかし、愛知県大会で優勝(県

大会決勝戦は硬式野球部と同日ダブル優勝)した彼らの残した実績と、野球に取り組む姿勢は後輩達に受け継がれるに違いないと確信をしていました。



新チームとなり迎えた秋季大会。圧倒的に戦力が劣ることは自他共に認めていました。ところが、引き継がれた東邦魂は、ここぞという場面で見事に発揮され、県大会で準優勝。夏につづいて秋の東海大会へも進出することができました。さらに、東海大会では延長戦の末に静岡商業に勝利し、準決勝ではあの岐阜中京高校にリベンジする機会を得ました。これも延長戦にもつれ込み、最終的には3対1で勝利することができました。勢いによって決勝戦でも打ち勝ち、秋の東海大会では初出場、初優勝となりました。

現在のチームは決して強いチームではありません。まだまだ未熟な部分もありますし、軟式野球の戦い方を熟知しているとは到底言いがたいことは事実です。ただ、少しずつ野球の本当の面白さ、本当の奥深さ、本当の怖さを学んでくれているような気がします。そしてもちろん「野球の神様」が実際にいるんだということも…。

※秋季東海地区大会の優勝を記念して、横断幕(下図)を作成しました。



## 吹奏楽部

### 全日本マーチングコンテスト 全国銀賞、東海地区No.1をGET!

吹奏楽部顧問 白谷 峰人

第21回全日本マーチングコンテストが11月23日(日)

千葉県幕張メッセで開催されました。

全出場団体25団体中その日最後の25番目に出演。本番はこれまでで一番良い出来で、心意気も最高。アクシデントなんてなんのその。観客の皆さんの心を揺り動かすことができたのではと思って



受賞後、喜びあふれるメンバー

います。

私自身、関係者でありながらも本番中は東邦の素敵な演奏演技に魅了され、言葉では言い表せないものを感じ、気づいたときには目から大粒の涙が…。

今年は例年とはまた違う様々な困難にメンバーみんなが苦しみ、うめき、挫折しそうになりながら、手をつなぎ、励ましあい、協力しあい、乗越え新たな歴史の1ページを開きました。全国銀賞、東海地区No1のおまけつきで…。

最強という名のもとに…満開の花を咲かせました。

ご支援、ご協力していただいた方、応援していただいた方皆さんに、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

15:30	音出しエリアへ移動	集中力 50%
15:40	音出しエリア到着 各自音出し	集中力 60%
16:25	チューニング	集中力 70%
16:45	待機1	集中力 80%
16:55	待機2	集中力 90%
17:02	本番 スターティングポジション	集中力100%
	本番スタート	集中力120%
17:08	本番終了	完全燃焼

○∞¥◎☆◆◇■#♪#♭%な笑顔・涙…感動

## バトントワリング部



### 厳冬の中庭で猛特訓

バトントワリング部顧問 志水 廣己

バトントワリング部は、『日本マーチングバンド・バトントワリング協会』主催の大会で、ボンボン編成部門にエントリーしています。昨秋11月1日に開かれた東海大会では金賞となり、この1月24日に千葉県幕張メッセで開かれる全国大会に6年連続9回目の出場権を得ました。今年度の場合、東海大会は出場7チーム中上位2チームが全国大会に推薦されました。

ボンボン編成部門は、①30m平方のフロア内で②3分半程度の時間を③自選した楽曲に合わせて④ボンボンを両手に持って⑤創作した集団演技を競い合うものです。

今年度の場合、東海大会は7チーム中上位2チーム

が全国大会に推薦されました。ここ数年、東邦チームが演じるステージの特徴は、

①1年から3年まで全部員がステージに立ち、②人数の多さを生かした迫力あるフォーメーションを構成し③動きが大きく難度の高い技を連続させる点にあります。

全国大会に出場してくるチームには、併設中学から継続して練習を積み上げ、全員ではなく選抜された人数で演技するチームも少なくありません。そうした中で全国上位に食い込むことは容易ではありませんが、東邦チームはここ2年間、2位、4位と健闘しています。

新年早々から、31名の部員達は『笑顔・元気・ファイト』を合言葉に、厳冬の中庭で猛練習をしています。目指すは全国大会“金賞”です。



## 表彰

◇全国教育書道展 (5200点の作品)  
三重県知事賞 2年 山田彩友美さん

◇第6回高校生福祉文化賞(9011点中16作品)  
エッセイコンテスト  
優秀賞 3年 伊藤 果歩さん

◇愛知大学 現代中国学部主催 作文コンクール  
最優秀賞 2年 湯本 悠さん

## 卒業生の活躍

春日井市市制65周年  
「マスコットキャラクター」デザイン  
2007年卒 吉田 有里さん

春日井市のマスコットキャラクター  
「道風くん」



# クラブ活動 大学

## 硬式野球部



### 4年間ありがとうございました

硬式野球部主将(経営学部4年) 吉田 有輝



10月23日(木)、愛知大学野球秋季リーグ戦の全日程が終了し、私たち4年生4人は硬式野球部を引退しました。私たち硬式

野球部員は、「今シーズンこそ、2部リーグへ昇格したい」という強い思いを持ってリーグ戦を戦ってきました。しかし、残念ながらあと一歩というところで、目標を達成することができませんでした。

私の大学野球生活はこれで終わってしまいましたが、卒業後は働きながらクラブチームで硬式野球を続けることになっています。今後は、社会人として新たな目標に向かって、がんばっていきたいと思います。

最後に一言。リーグ昇格を果たせなくてすいませんでした。しかし、来シーズンこそは、先輩や私たち4年生が果たせなかった2部リーグ昇格を、後輩たちが実現してくれると確信しています。今後は、愛知東邦大学硬式野球部のOBとして、硬式野球部の活躍を陰ながら応援していきたいと思っています。4年間、本当にありがとうございました。

## サッカー部



### 目標に向かって

男子サッカー部2年 橋詰 広太郎

私たち男子サッカー部は選手が中心となりクラブを運営しています。今のチームには何が足りないのかなど監督に言われて実行するのではなく、選手で話し合い、選手が考え行



動しています。この1年で団結力や練習に対する意欲や個人スキルなど、少しずつではありますが確実に成長してきました。

ここで納得するのではなく、常に向上心を持ち、一日一日を大切に目標達成に向け、日々努力したいと思っています。

今年こそは2部昇格という目標に向かって、チーム一丸となり練習をつんで成長していきますので、温かいご支援、ご協力よろしくお祈りします。

## フットサル部



### リーグ優勝を目指す

フットサル部顧問 山極 完治・松井 慶太

前身のフットサルサークルからフットサル部へ変わり今年度で2年目を迎えます。現在は1・2年生26名の部員で活動を行い、今年度からは愛知県サッカー協会主催の「愛知県フットサルオープンリーグ」に加盟して活動しています。学連の加盟とは異なり、社会人リーグの登録は加盟審査があり、順番待ちがあるほど狭き門となっています。また、フットサルは歴史の浅いスポーツながらプロ化を契機に現在急速に普及しているスポーツです。リーグ加盟には様々な経緯があり、学生達が苦勞しながら主体的に取り組んだ結果といえます。

さて、競技成績はというと、現在までリーグ1位をキープしています。当面の目標はこのリーグでの優勝を目指しています。チームとしてはサッカー経験者から未経験者までいるものの、とてもいい雰囲気です。

正直なところ、発足当初は連盟加盟に3年はかかると感じていました。後片付けもできないほど若いチームだったのです。しかし、学生達は見事に予想を裏切ってくれました。今後もさらなる成長が見込めます。2年生の卒業、クラブ完成年度までの2年後を一つの区切りとし、学生達の成長を見守り、指導していきたいと思っています。

最後に、連盟登録の後押しを頂いた方々、加盟手続きや学生指導にご協力頂いた方々に深く御礼申し上げます。競技成績の向上と学生の成長をもって恩返ししたいと思っておりますので、今後もご支援、ご協力をお願い致します。

# パートナーシップ・インフォ

フレンズ・TOHO企画

## 学園創設者下出民義ゆかりの地を訪ねる

学園創設者下出民義は、福澤桃介とともに木曾川の電力開発に力を注ぎました。「桃介」は『電力王』として多くの人が知る場所ですが、「民義」の名を知る人は多くありません。

11月8日(土)、東邦学園の後援組織「フレンズ・TOHO」と「愛知東邦大学地域創造研究所」の共催で、今も残る『下出橋』など中部の近代化を牽引した電力事業の遺産に往時を偲びました。『下出橋』は、大桑発電所建設に中央線野尻駅から資材を運ぶために木曾川に架けられた吊り橋。1996年当時は歩行者のみ通行が出来る状態(「東邦キャンパス」第56号)でしたが、今は橋脚だけを残し、当時の様子を知ることは出来ません。しかし『下出橋』の名は橋脚に残り、「民義題」と民義直筆であることが読み取れます。「民義自伝」(東邦学園50年史)に「文字も私が書いた」と記されています。

近代化遺産に指定された「読書発電所」「柿其水路橋」「桃介橋」など関連施設を関西電力関係者の案内も受けて見学しました。紅葉が見頃でもあり、参加者それぞれに感慨深い研修となりました。

# 大学生協 News

## ヒロシマから学んだこと

~Peace Now! Hiroshima 2008に参加して~

11月19日(水)学内で、大学生協が8月に広島へ派遣した学生たちの報告会が開かれました。報告者は経営学部3年生でインカレ愛知学生委員会委員長の久保勇樹さん、人間学部2年生の島田大地さんと中野博範さん。

全国の大学生協代表が集まる「Peace Now! Hiroshima 2008」に参加し、被爆者の声を聴き、市内の慰霊碑を巡って、記念式典にも参加しました。久保さんは自作のパワーポイントによる映像を使って報告しました。スライドの最後は「みなさん考えてみてください。あなたは何人となつてつながっていますか? あなたの大切な人って誰ですか? その大切な人を原爆というもので失ったら、あなたはどのように思いますか? 知ってほしい現実を、原爆で大切な人を失った人がいることを…」と締めくくっていました。学内のみんなで折った千羽鶴3000羽も持参して、広島平和公園の「折鶴の碑」に供えました。



# 行事予告

## 東邦高等学校吹奏楽部 定期演奏会のご案内

東邦高等学校吹奏楽部では、第53回定期演奏会を開催します。みなさんのお越しを心よりお待ちしております。

日時: 2009年2月14日(土) 16時30分開場(予定) 17時30分開演(予定) (20時終演予定)

場所: 愛知県芸術劇場 大ホール(名古屋市東区東桜1-13-2)

入場料: 前売券: 800円(当日券: 1,000円)

※小学生以上は入場券が必要です。

※前売券の販売状況により、当日券を販売しないこともありますので、ご了承ください。

お問い合わせ

東邦高等学校吹奏楽部

顧問 磯部・長野・古野・白谷

TEL: 052-782-1171

FAX: 052-782-7151



2008年 第52回定期演奏会



**TOHO gallery** 東邦ギャラリー

# 未来の芸術家たち展

愛知県美術館:10月28日~11月3日

関連記事 6 ページ

